

香川県・東京藝術大学連携事業 瀬戸内海分校プロジェクト 演劇分野 坂田ゆかりワークショップ 《れきみ展ガイドツアー》

SONY 開発のテレプレゼンスシステム「窓」を使って
《れきみ展ガイドツアー》に取り組みます。
《れきみ展ガイドツアー》とは、人々の
「暮らし」の中で、実際に使用されていた瀬戸内海歴史
民俗資料館(れきみん)の収蔵品にまつわる物語を集め、
それぞれの収蔵品にまつわる場所から、れきみんを訪れた
お客さんに紹介する遠隔ツアー型パフォーマンスです。
どんなパフォーマンスをするかはみなさん次第！
リサーチ・企画編での調査をもとに、台本や振付などを
一緒に創り上げていきます。



2022年度さとらみ遠隔シアターの様子

場所：瀬戸内海歴史民俗資料館（高松市亀水町）及び香川県内各所
参加費：無料（瀬戸内海歴史民俗資料館までの送迎あり）
持ち物：昼食

参加条件：次の①②③すべてを満たす香川県内の中学生・高校生

①会議および視察に原則として全回参加できる方。

作戦会議（90分×4回程度）：9月～10月、都度参加者と日程調整の上、リモートで行う。

現地視察（1日を予定）：10月、参加者と日程調整の上、グループで集まって上演場所を視察。

②リハーサルおよび本番 両方参加できる方。

リハーサル：10月、参加者と日程調整の上、半日×1回を予定

本番：暮らしとらみ展会期中の土日（2023年10月27日～2023年11月26日）

日程は参加者間で調整。

③出演するパフォーマンス、記録写真、記録映像に顔を出せる方。

- ・本番の所要時間は、準備から終了までひとり3時間程度です。
- ・日程に関する個別の事情はご相談ください。
- ・ワークショップ編開始時に、改めて詳細スケジュールをお伝えします。

※プロジェクト終了後、「香川県・東京藝術大学瀬戸内海分校プロジェクト」の公式記録に、お名前が活動の様子とともに掲載されます。

2022年度 活動の様子



作家プロフィール

坂田ゆかり

東京藝術大学社会連携センター特任助教



東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、全国の劇場で舞台技術スタッフとして研鑽を積む。
2014年、アルカサバ・シアター（パレスチナ）との共同創作『羅生門 | 藪の中』を演出（フェスティバル/トーキョー14）。2016年、建築家ホルヘ・マルティン・ガルシアと8名の高校生と共に制作した『Dear Gullivers』（瀬戸内国際芸術祭2016「複雑なトポグラフィ」展／特別名勝 栗林公園）は、2018年ロンドンでのアップデートを経て第16回ヴェネチア建築ビエンナーレのスペイン館に参加。同2018年に演出したまちなかパフォーマンス『テラ』（フェスティバル/トーキョー18）が、2020年のパンデミックをきっかけとし、日本・タイ・ミャンマー・インドネシア・ベトナムのアーティストによるアジアの遠隔協働プロジェクト「テラジヤ | 隔離の時代を旅する演劇」に発展。以来、プロジェクトの企画・運営における中心的な役割を担う。2022年、International Theatre Institute (ITI/UNESCO) の World Theatre Dayにて、日本代表のエマージング・アーティストに選出された。